

家庭の省エネヒント集 Part2

～衣・食・住の工夫で減らそう CO₂～

発行：環境省 北海道地方環境事務所 制作：えべつ地球温暖化対策地域協議会 2007年3月



気候の安定化に向けて直ちに行動を！～科学者からのメッセージ

2007年2月、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第4次評価報告書の内、第1作業部会からの報告が発表されました。IPCCは、政府間の会合ですが、世界有数の科学者数千人が参加して、科学的知見に基づいた、政策立案者への助言を目的としています。報告のポイントは、次の通りです。

（政策決定者向け要約からの抜粋 全国地球温暖化防止活動推進センターのホームページより）

- ・気候システムに温暖化が起こっている、と断定。
- ・地球温暖化は、人為起源の温室効果ガスが増えたことが原因、とほぼ断定。
- ・最近100年間（1906～2005年）に、世界平均気温が長期的に0.74℃上昇。
- ・将来の予測は

環境保全と経済発展が両立する場合

⇒気温は約1.8℃(1.1～2.9℃)上昇、海面は18～38cm上昇。

化石エネルギー源を重視する場合

⇒気温は約4.0℃(2.4℃～6.4℃)上昇、海面は26～59cm上昇。

（1980～1999年までと、2090～2099年を比較した予測）

- ◆ 報告書の政策決定者向け暫定和訳（気象庁のホームページ）

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/ipcc/ar4/>

このIPCCの報告を受けて、気候変動を研究する科学者の方々から、国民に向けて、「子どもたちの未来を守るため、今こそ行動を開始すべき時」との緊急メッセージが出されました。

メッセージには、「温暖化防止の鍵は、私たち自身が握っている。私たちは、消費者であり、生産者であり、教育者であり、納税者でもある。また、政策決定プロセスへの参加など、あらゆる場面で温暖化防止の意思表示を行うことができる。それらの集積が、産業や政府を動かし、『低炭素社会』へ向けて日本を変えていくのである」とあります。

また、最後は、「世界に先駆け「低炭素社会の実現」という目標を共有し、私たち国民一人ひとりが、自分の生活を見直し、温室効果ガスの低減のために何ができるか考え行動することを呼びかけたい。今、行動を開始すれば、子どもたちと人類の未来を守ることができる。」と結ばれています。

- ◆ 緊急メッセージの全文（環境省のホームページ）

<http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/message.html>

環境省北海道地方環境事務所・（財）北海道環境財団・えべつ地球温暖化対策地域協議会では、2006年12月に、「あったかエコライフ Part2」を開催し、家庭で実践できる衣・住の省エネの工夫を皆さんと一緒に考えました。この「家庭の省エネヒント集 Part2」では、その報告を中心に、食の省エネについても紹介しています。皆さんの温室効果ガス低減の取り組みの参考になれば幸いです。

【本冊子についての問い合わせ先】

北海道地方環境事務所（環境対策課） 電話：011-251-8702 F A X：011-219-7072



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

